

はじめての 万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

vol.
135

川の流れと不変の心

本歌は、題詞によれば、三輪高市麻呂が長門守に任じられた際に、三輪山付近の川辺（泊瀬川）に集まって宴会を開いた時に詠まれたものです。題詞とは、歌の前に置かれ、歌の主題や歌が詠まれた事情や年月、歌を詠んだ人の情報などを漢文で記したものです。「長門守」とは、長門国（現在の山口県の北部および西部）の行政を掌る役職の名です。『続日本紀』によれば、高市麻呂は大室二（七〇二）年正月に長門守に任じられています。本歌は、その折の送別会で歌と見られ、これから長門国へ赴任する高市麻呂が宴会の参加者に向かってうたいかけたものでしょう。

歌は、三輪山を擬人化して「泊瀬川」をその着物の帯に譬えています。「帯ばせる」は、「身につける」意の「帯ぶ」の敬

三諸の 神の帯ばせる 泊瀬川

水脈し絶えずは われ忘れめや

三輪高市麻呂（巻九・一七七〇番歌）

語「帯ばす」に存続の助動詞「り」の連体形「る」をつけた形で「帯となさる」と訳せます。そうして帯びている泊瀬川の流

れが絶えてしまわない限り、私はあなた方を忘れません、とうたっているのです。なお、『万葉集』において、本歌のように山を擬人化し川を帯とみなす例は、他に「大君の三笠の山の帯にせる細谷川の音の清けさ」（巻七・一一〇二番歌）などがあります。

泊瀬川が現在も豊かな水脈をたたえるように、川の流れは容易に絶えることはありません。高市麻呂は、絶えることのない豊かな川の流れと同じように私もあなた方をずっと忘れません、とうたうことで、別れる友人たちを大切に思う気持ちを表したのです。

（本文 万葉文化館 榎戸 渉吾）



訳 三諸の神が帯となさる

泊瀬川の、水脈の絶えない
かぎり、あなたをどうして
忘れようか。

万葉文化館 イベント情報

◆特別展 天翔る飛鳥 鳥頭尾精の世界

7月12日（土）～9月15日（祝）

明日香村出身の画家で、満93歳になる鳥頭尾精さん。本展では、16年の歳月をかけて奈良や京都の古都の風景を描いた「古都シリーズ」を一挙に公開します。



鳥頭尾 精《蘇る朱雀》
奈良県立万葉文化館蔵

※国内の小・中学生、高校生、18歳未満の人は無料。その他割引など、詳しくは当館HPをご覧ください。

●対談 無料要申込

7月21日（祝）14時～15時30分

「講師」鳥頭尾 精さん（日本画家）

西光 慎治さん（明日香村教育委員会文化財課課長補佐）

「演題」画業70年のあゆみ

あすかの風土に生きて

「会場」企画展示室

●学芸員による ギャラリートーク 要観覧券

7月13日（日）14時～

7月16日（水）15時40分

「講師」当館学芸員

「会場」日本画展示室

◆万葉集をよむ 無料

7月16日（水）14時～15時30分

「秋の雑歌（4）」

（巻8・1544～1556番歌）

「講師」井上さやか

（当館企画・研究係長）

「定員」150人（先着申込不要）

※オンライン視聴（定員なし）は要申込

◆にぎわいフェスタ万葉夏

7月20日（日）～8月30日（土）

詳しくは当館HPをご覧ください。



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
🌐www.manyo.jp